



下北沢一番街(振) 第20期生 岩田 正吾さん

私は下北沢(世田谷区)で生まれ育ち、郡山で大学生生活を送り社員を4年半ほど経験した後、父が創業したジーンズショップを継ぎました。8年前に廃業し店舗を

余力のあるうちに

影を受け入れる際は「撮影料」をもらう仕組みを取っている知り、非常に参考になりました。 賦課金を助成金だけでなく撮影料も商店街運営に充てる手法、有りです。 余力のあるうちに、イベント運営ノウハウやボランティア連携マニュアルなどをまとめる、何でも屋が居なくてもやる形を、つなぐという模索中です。

「下北沢は対局イベントがあるほど『将棋』が熱い。私もよくスマホで指します」

商店街大学から

人に貸してから時間が自由になり、商店街活動との関りが深まりました。 一番街では理事と青年部長を務め、下北沢大町まわりの運営など、何でも屋となっています。

商店街大学を受講したのは、地元の卒業生に勧められたからです。今期また、テレビなどの撮り、独特の雰囲気があるなど感じました。 再開発は鉄道会社との協力が必須だし、広場を使う際のルールづくりなども一番街だけで済む話ではありません。下北沢商店街連合会(6商店街で構成)のほうでエリアマネジメントの勉強を進めているようです。

どの連のガチャが出るかな? 高円寺阿波おどりを模したオリジナルアクリルスタンドの入ったカプセルトイガチャが、がんばろうノ商店街事業のイベント「高円寺ガチャ」阿波おどりで登場した。

高円寺

協会(高円寺南商店会)につながる商店街とNが企画したもの。JR POが連携した。高円寺駅を挟んで南北 高円寺といえは、阿波おどりの大人もワクワク



30種類あるガチャの一部

純情商店街の吉田善博専務理事は「ぜひお目当ての連が出るまでガチャガチャしてほしい。このガチャの収益を高円寺阿波おどりの運営に充て、引き続きPRしていきたい」といいます。



地元の30連がガチャに

波おどりの。コロナ禍で3年開かれていないが2023年夏いよいよ再開の予定だ。そこで街を再び活気づけよう、地元で活動する30連を、着物や小物の特徴をとらえたガチャ商品にデザインし、30種類、計2000個を制作した。ガチャができたのは、1月21・28日のセール期間中に、3商店街の参加店舗を利用した人。500円以上の買い物をするガチャ補助券が1枚もらえ、会場に1枚持っていくと、ガチャを回せるコインと交換してもらえる仕組みで、1人2回(4枚分まで)回せた。1月28・29日にガチャマシンが純情商店街とバル商店街の各会場に登場すると、大人も子供も次々に訪れ、中には自分が所属する連を引き当て「よっしゃ」という人も。このガチャマシンは今限りではなく、今後、純情商店街とバル商店街に設置し、8月26・27日の阿波おどり当日には特設ブースを設ける予定。

品川区商連×京急

バッグ持って探そう

旧宿場町の歴史とアート

「歴史とアート、探検と京急行電鉄が1リスタンプを集めるして・触れて」とし、1月14日・3月5日に「東海道品川宿駅」プラリイを開催した。台紙がわりのエコバッグを持って、旧東海道を平行して走る京急も参加できた。エコバッグは3種類、区商連と京急が、複合ビルに設置されたポイント計7カ所を巡る者の利便性を考え選んだ4カ所所で1枚300円で販売した。「歴史とアート」がイメージした模様やアートのデザインは地図がモチーフとなっており、表はあしらわれ、参加者は



エコバッグ裏の地図は並べるとつながる仕掛け



ラリー後の抽選に挑戦した女の子。当たったか? (箱を持つのが難関さん)

表裏の好きなところにウサギや鳥、電車、スマイルマークなどのスタンプを押した。次をどう目指すかのお助けアイテムは神社や旧跡、アートスポットや旧跡、おしゃれショップを掲載したガイドブック。歴史やオフェンに触れたり、自慢のメニューや売れ筋商品をお目当てにできたりした冊子作りにも区商連は、掲載店の候補選びや取材の橋渡しなど協力した。 掲載店の一つで、エコバッグの販売所と景品の抽選・交換所を引き受けた北品川本通り商店会の「いにしえ酒」は、日本酒の古酒や熟成酒の専門店。店主の薬師大幸さん、スタッフの齋藤太郎さんは「普段は来ない親子連れが来店前から待っている時もあった」「イベント開始直後はバッグがあつたという間に売り切れた」と驚きを語り、これからラリーに行くという参加者に慣れた様子で段取りよく巡るコツなどを解説していた。



各横丁に統一デザインのフラッグも掲げられた

上野中通

江戸から続く横丁名

イベントで復活アピール

江戸の道筋がほぼそのまま残る三つの横丁で三つのスタンプを集めよう。台東区の上野中通商店街振興組合が「三横丁復活スタンプラリー」を1月17・20日に行った。 がんばろうノ商店街事業のイベントで、商店街エリア内の「摩利支天横丁」「六阿弥陀横丁」「三枚橋横丁」が、区道の愛称として2021年4月に認定されたことをアピールするもの。 スマホで各横丁のチェックポイントにあるエコポイントにあるQRコードを読み込んでスタンプをそろえ、商店街のシンボルともいえる妙善山徳大寺(摩利支天徳大寺)へ、区道路愛称名事業へ地元町会と共同で申請した。 晴れて認定を受けた後は横丁名のプレート ト、絵馬のいすれかと設置などを織り込んだ「旧横丁名復活事業」を起案。その一環で実施したデジタルスタンプラリーには約1000人が参加し、会員店舗からは「それぞれの通りに品格や情緒が出た」とも言われた。 「三つの横丁名復活については、かねて組合が現代の周辺地図に江戸末期の「東都下谷絵図」と重なる部分が多いことに着目し、「歴史を生かした街づくり」を掲げていたことが背景にある。また、横丁名が古地図上に書かれていたことも確認できた。各横丁の名前の由来や緑のある偉人を積極的にPRして、三横丁名の定着につなげたい」と今後への意欲を見せた。



スタンプ3つで交換してもらえた景品

コロナ禍はまだ終わっていません。感染拡大防止対策を続けましょう。



3密は避ける!



手洗いと消毒を徹底!



こまめに換気!

SOCIAL DISTANCE

距離を保とう